



# ほ 多 当

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆

～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～

【今月の一冊】実践版GRIT やり抜く力を手に入れる

キャロライン・アダムス・ミラー 著 すばる舎

ホームページ <https://primecorporation.jp/>

発行日 2026年9月1日 Vol. 287

発行元 有限会社プライム・コーポレーション

代表取締役 渡 邊 敏 徳

〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲1660番地

Phone 0554-22-2810 Fax 0554-67-8006

## 甲子園の土

夏と言えば阪神甲子園球場で行われる高校野球が思い浮かびます。夏の甲子園も100年の歴史があり、今年は第108回目の大会となりました。

今大会の参加チーム数は全国3,662校3,363チームで、優勝校は智辯和歌山高校が5年ぶり4度目の優勝を手に入れました。優勝ということは、この夏一度も負けなかったことになります。

夏の風物詩となっている甲子園での高校野球ですが、前からとても気になっていることがあります。それは負けたチームの選手がグラウンドの土を持ち帰ることで、負けた選手が涙を流しながら土を持ち帰る光景は涙をそそりますが、土は阪神甲子園球場の所有物であり公然と「土泥棒」をしているのかと心配になっていました。

結論からいうと、「甲子園の土を持ち帰る＝直ちに窃盗罪になる」と単純には言えませんが、球場管理者の許可なく持ち帰れば、法律的には問題になり得る行為です。長い歴史の中で土を持ち帰るという「甲子園という文化」と「法律」との面白いズレがあります。

阪神甲子園球場は、阪神電気鉄道が所有・管理する施設です。グラウンドの土も、単なる「自然の土」ではありません。甲子園では、黒土と砂を独自にブレンドしてグラウンドを維持しています。阪神甲子園球場も黒土の産地や砂の産地を公表しています。

刑法上の窃盗罪は、簡単に言えば他人が占有している物を権利者の意思に反して自分のものとして持ち去ることです。もし球場側が持ち帰りを禁止していて、土を自分のものとして持ち帰ったならば、理屈の上では窃盗罪の問題が出てきてしまいます。

しかし、高校野球の場合は話が違います。敗退した選手がグラウンドの土を持ち帰ることが長年にわたって、甲子園で行われる高校野球の伝統として定着しているからです。

誰が最初だったのかについても諸説ありますが、1937年の川上哲治氏説、1949年の小倉高校・福岡一雄氏説などがあります。「無断で勝手に盗んでいる」というより、球場側もその文化を承知したうえで長年認めてきた慣行と考えるのが実態に近い状況です。但し、「甲子園の土を持ち帰っていい」という明確な公式ルールは見当たりません。

「自分が甲子園で戦ったという証を持って帰る」甲子園最後の儀式として、大人たちが暗黙の了承をしてくれていることに感謝です。甲子園の土は苦い思い出かもしれませんが、大切な青春の1ページですね。



## テレビを捨てる？

私たちは毎日多くの時間を“テレビ”というものに支配されています。一日中働いた後の自分へのご褒美として、お酒を飲みながら癒しの時間を楽しんでいる人が多いのではないかと思います。

しかし、テレビを見ることは受動的で非生産的な活動であり、貴重な時間を無駄にしてエネルギーを消耗させることになります。ほとんどの人はテレビが好きで、それがリラックスになると感じていることも事実だと思います。日本の成人の場合、平均して1日約2～3時間くらいテレビを見ていますと言われています。考えてみると1日3時間×365日。それは45日間で1ヶ月半になります！みなさんはどれだけの時間テレビを見ていますでしょうか？

テレビ視聴をせいぜい1日1時間程度自分に許すくらいにして、テレビを見ない時間の半分を生産的な活動に置き換えることで、毎日の生活が大きく変わるように感じます。

今、「テレビが家にない」人は20代を中心に増えていると言われています。しかし、ある調査によると、日本人のスマホ利用時間は1日平均3時間42分だそうです。結局テレビを見ていた時間がスマホに置き換わっただけでした。

私たちすべての人に1日24時間が等しく与えられています。時間は貯蔵することができません。今この瞬間も強制的に消費され続けています。この「取り戻せない時間」に最大の価値があります。一度しかない人生を大切にしたいですね。



### 【座右の銘にしたい名言】



あきらめないことだ。一度あきらめると習慣になる。

斎藤茂太（日本の精神科医、随筆家）